

防府分屯地創設63周年記念行事

昭和は節目の100年
隊長は節目の50周年

令和7年11月24日(月・振替休日)陸上自衛隊防府分屯地において創立記念行事が挙行され、宇部支部から2名が参加しました。防府分屯地は航空自衛隊防府北基地に所在し、第13飛行隊、中部方面航空隊管制気象隊第2派遣隊等が所在しています。会場には防府市長 池田豊氏、防府地区自衛隊協力会長 島田教明(のりあき)氏、山口県議会議員、防府市議会議員など多数の御来賓の方々が参加されました。

「信頼」をコンセプトにした今回は、9時30分から記念行事が挙行された後、訓練展示、第13音楽隊による音楽演奏など趣向を凝らしたアトラクションが披露されました。11時40分から祝賀会食が行われ、それぞれ意見を交換するとともに、個人・団体の相互の親睦を図っていました。

13時から閉会行事が3つ(第13飛行隊歌の合唱、「輪になって踊ろう」の合唱、笑い構三唱)で締めくくりました。



(左) 第13音楽隊による心地よい演奏。来場者の心をいやした。(中) 災害派遣の訓練の様子。消火活動を展示了。(右) 最後の締めの様子。手前の櫻を掛けた女性は、「幸せますコンシェルジュ」の中野さん。

え？クマの駆除で災害派遣？

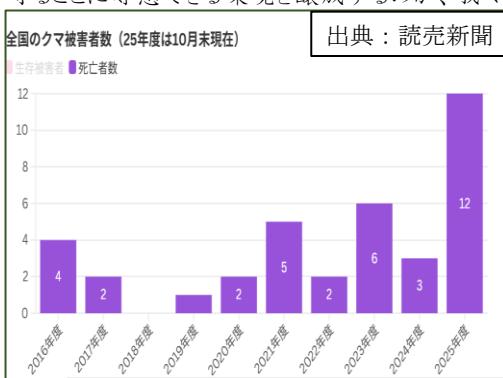
秋田県で全国初 筆者は懐疑的

今年は全国各地でクマの被害が頻発しています。近年で最も多かった2023(令和5)年と比べても、発生件数、犠牲者数とも過去最高を更新中(死者数は11月15日現在で13名、下図参照)です。

その様な状況下、秋田県知事が小泉防衛大臣と面会して災害派遣の直談判を行い、10月28日に派遣が決定しました。そもそも筆者はクマの災害派遣に疑問を抱いていました。その理由として、①自衛官は敵兵はもとより生き物を撃った経験が無いこと、②クマが棲息する森林錯雜地での射撃に不慣れであること、③クマが自衛官を襲撃した際、その対処方法に習熟していないこと、などです。蓋を開けてみるとクマを直接駆除するわけではなく、罠の設置や物資の運搬などの後方支援に終始するようです。

が、過去にも懐疑的だった災害派遣があり、2004(平成16)年に京都府で発生した鳥インフルエンザによる災害派遣はその典型です。この時にクローズアップされたことは、災害派遣の三要件として「緊急性」、「公共性」、「非代替性」でした。この三要件に照らし、災害派遣の妥当性について考察してみます(下表参照)。あくまで私見ですが、地震、風水害(台風を含む)に比べ、鳥インフルエンザやクマ被害などは三要件に完全に当てはまるとは思われませんが、鳥インフルエンザは20年以上の既成事実があるため、現在に至っては災害派遣のハードルがかなり下がっています。

我が国周辺の安全保障環境は、戦後最も厳しく複雑な状況にあります。我々が安穏と生活している時にも中国は領海・領空侵犯を繰り返し、台湾の領有を企図しており、ロシアは常任理事国の立場を利用して力による一方的な現状変更を試みており、北朝鮮は弾道ミサイルの発射や地下核実験を繰り返しています。自衛官の定員割れが常態化する中、我が国の平和と独立を守ることに専念できる環境を醸成するのが、我々(隊友会)の任務・使命であると思います。



	緊急性	公共性	非代替性
地震	◎	◎	◎
風水害	◎	◎	◎
鳥インフル	△	×	△
クマ	×	×	×

危険従事者表彰

11月3日、元陸上自衛官で会員の木下繁幸さんが瑞宝単光章を受章されました。永年にわたる自衛官勤務、お疲れ様でした。在職間の御労苦に敬意を表するとともに、今後益々のご活躍を祈念いたします。また、OBの土井伸二さんが瑞宝双光章を受章されました。